

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ(学校)名 可児市子どもサポート研究会

テーマ 特別支援教育 みんなが輝くために
～専門性の向上を図り、特別なニーズが必要な子どもの実態把握や指導に繋げる～

取組のポイント・成果

取組のポイント

【研修の計画・運営】

- ・ 7月6日 可児市子どもサポート研究会 勉強会開催
放課後ディサービスのスタッフと福祉と教育の連携を考える。
「K-ABCⅡの結果の読み方、指導の仕方を学ぼう」
* 書籍の紹介
- ・ 9月28日 可児市子どもサポート研究会 勉強会開催
「外国につながるのある高校生の実態・進路を学ぼう！学習支援、日本語学習、DLAの活用方法」
- ・ 11月9日 可児市子どもサポート研究会 勉強会開催
「グッドイナフ人物画テストから子どもの実態把握を行う」
- ・ 1月25日 可児市子どもサポート研究会 勉強会開催
「読み書きスクリーニング STRAW-R, PVT-Rについて学ぼう。LDの理解を深めよう」

【研修の受講・視察】

- ・ 5月19日 蒲郡子どもサポート研究会 勉強会参加
「集団生活での困り感を理解する ～作業療法士の視点から～」
- ・ 8月 視察 岐阜県の高等学校 国際クラス見学
外国につながるのあるこどもの特別支援教育について考える。
* 認知行動療法を参考にした実践の発表
- ・ 11月18日 蒲郡子どもサポート研究会 勉強会参加
「障害のある子どもの保護者支援とペアレントトレーニング」

【書籍からの学び】

- ・ 書籍を読み、専門的な知識を身に付け、通信を作ったり、研修会で紹介したりするなどして広める。(書籍名「やさしくわかる認知行動療法」「子どもの心理検査・知能検査」「発達障害の人が見ている世界」「KABC-Ⅱによる心理アセスメントの要点」)

成果

【研修の計画・運営】

- ・ 子どもの捉える視点
実態を掴む視点を身に付け、活かすことができた。(児童の絵から発達年齢が捉える)
- ・ つながり
参加者が徐々に増え、繋がりができた。特別支援学級担任、通級担当、特別支援主幹、スクールソーシャルワーカー、特別支援を学びたい教職員、その他放課後デイの方、多文化共生センターの方など、多職種連携の場として、共に学ぶことができた。

【研修の受講・視察】

職員会や勉強会にて学んだことのポイントを伝え、特別支援教育の向上を図った。学んだことを伝える機会を取ることで研修内容をより自分のものにすることができた。

【書籍からの学び】

書籍から学んだことを報告する時間を設け、多くの方に伝えた。

今後の課題

【研修の課題】

1、研修の計画・運営

- ・内容の精選

勉強会では、1回2時間でアセスメントの概要を学んだ。活かすことができるにはさらに学ぶ機会が必要だった。内容を精選することで身に付けるまで学ぶことができるようにしたい。

- ・参加のしやすさ

勉強会は土曜の午前中開催となったので、参加しにくい先生がいた。長期休暇（夏休み等）を有効に利用したい。

2、研修の受講・視察】

- ・蒲郡の研修は、地域で連携しており、大変学びの多い研修であるが、遠さと開催日程から参加できる方が限られていた。

【今後の方向性】

1、専門性の向上

- ・自主研修の継続

参加者の意見を聞き、内容を精選する。

- ・支援・指導につなげる

児童の実態を掴み、支援・指導に繋げる。学んだことを実践する力を付ける。

2、つながり

- ・この事業を通してつながりを広げることができた。地域で教育・福祉・医療の多職種連携を図ることができる第一歩として勉強会を継続していきたい。これまでにできた繋がりを大切にしていける。

【還元の方法】

1、校内職員へ

- ・職員会や打ち合わせ、校内メールにて、勉強会のお知らせや学んだことを伝える。
- ・夏季校内研修では通常学級の特別支援教育（学習障害を中心に）の研修を実施した。

2、勉強会での報告

- ・勉強会の際に学んだことを報告したり、まとめたものを資料にしたりして広めた。
- ・認知行動療法については実践したことを報告した。

3、児童への支援・指導

- ・グッドイナフ人物画について学び、子どもから大まかな力を見る視点が見えた。支援や指導の仕方を検討することができた。
- ・読み書きの力に注目し、書く量の軽減やマスのおおきさの調整などを行った。
- ・検査を実施し、結果からチームで支援について検討した。